

志田倫明の総合的な学習の時間（第3学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

総合的な学習の時間では、探究的な学習（以下、探究）を通して、学んだことを、現在及び将来の自己の生き方について考えることが求められている。探究で重要なのは、「課題の設定・更新」である。なぜなら、どのような課題を設定・更新していくかが、その後の探究を方向付けるからである。WGでは、探究のプロセスで育成すべき資質・能力として、「問題状況の中から課題を発見し設定する」ことが挙げられている。このことから、「課題の設定・更新」の過程が重視されていることが分かる。私は、3年生の総合的な学習の時間において、**調査活動の結果をもとに発信対象を見いだし、取り組むべき課題を明確にする子どもの姿**を目指す。

これまでの実践では次のような働き掛けで「課題の設定・更新」を行ってきた。

① 設定した課題を子どもなりに解決させ、達成感を得させる。

② 専門家の思いや考えに触れ、解決の不十分さに気付かせ、新たに追究する必要感をもたせる。

こうして子どもは、学習対象を新たな視点でとらえ直し、さらに深く知るための課題（以下、インプット型の課題）を設定・更新し、探究活動が展開された。しかし、以下の2点の理由から、総合学習入門期の3年生にとって、このようなインプット型の課題設定は難しいと考える。1つ目は、これまで生活科を中心に自分の思いや願いを大切にしながら追究をしてきた子どもにとって、専門家等の他者の思いや考えは抽象度が高く、全員が把握したり共感したりすることが困難だからである。2つ目は、活動の結果に一定の達成感を得ている子どもに、知識の不十分さから同じ学習対象を改めて学び直させることは、子どもの意欲の減退にもつながりかねないからである。

そこで、今年度は、インプット型から、アウトプット型の課題設定・更新に転換し、授業の仕組みや働き掛けの有効性を検証する。

まず、3学年の学習対象として、「社会科の地域学習の範囲にあり、子どもが繰り返し関われるもの」であること条件に入れる。本研究では単元導入で総合的な学習の時間だけでなく、社会科の時間も使って学習対象のことを深く知る時間を設定する。十分な学習や体験の時間をとり、子どもがその価値や魅力を感じ愛着をもつまでに高める。

次に、子どもが感じた学習対象の価値や魅力を知らない人がいるという事実に出会わせる。より明確に事実を把握できるように、子どもにアンケート調査を行わせ、その結果を数値化させる展開を仕組む。誰が何を知らないのかを明確になることで、子どもは知っていることを発信したくなる。

このように授業を展開することで、これまで以上に他教科との横断を図り目指す姿を具現していく。

2 本研究で育む資質・能力

	①知識や技能	②ツール活用能力	③見方や考え方	④態度
総合的な学習	○地域にある郷土食の特色や歴史 ○郷土食を大切にしている人や守ってほしいと思う人の思いや願い	○獲得した知識の分類・整理・関係づけ（コアマトリクス） ○複数の情報の比較（ベン図）	○調べる必要のあることややってみたくいことを見付けることができる ○比較しながら共通点や相違点を見つけ、情報を整理することができる	○受け継がれてきた郷土食を大切にしようとする ○自分のできることやよさをもっと伸ばしてほしいとする

3 主張する働き掛け

単元の導入では、共通の体験や情報収集により、複数の視点で学習対象とのかかわりを深める場を設定する。学習対象にかかわる知識を得るとともに、学習対象が自分にとって「今後も大切にしていきたい宝物」「地域の自慢」等の愛着をもつ。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

子どもたちの周りの人は、どのくらい学習対象のことを知っているのかを問う。

目的と調査対象を明確にして調査活動を行わせるための働き掛けである。

「学習対象に関する知識や魅力を、周りの人たちはどのくらい知っているのだろうか」と問う。子どもたちが個々にもっている漠然とした思いを出し合い、取り組むべき具体的な課題に高めるためである。子どもは、周りの人として、家族や附属新潟小学校の児童、社会科の町探検で出会った地域の人たちなどを挙げる。これらについては、「本当に知っているのか」「どのくらい知っているのか」と問い返す。子どもは曖昧な状態では何を伝えたらいいのか分からないことに気付き、インタビューやアンケートで伝えたい相手が知っている情報を調べてくることを考える。

働き掛け2

調査活動の結果をまとめさせ、そこから分かることを問う。

周囲の人の学習対象に関する実態を把握させ、その要因を考えさせるための働き掛けである。

調査活動を終えた子どもに、予想の正否を問う。子どもは自分たちが調べてきた対象の調査結果を基に、その正否を話題にする。しかし、調べてきたグループによって調査対象が異なることから、ズレがおきたり不確かな情報が混在したりして、確かな正否が判断できなくなる。そして各班で調

べてきた調査活動の結果を1つにまとめる必要感をもつ。

このような子どもに、「どのようにまとめたら、みんなの予想がはっきりするかな」と問う。子どもは算数の学習を想起し、**複数の情報を整理し見やすくするために、表やグラフに整理して集計する(☆資質・能力 算数①②)**ことを考える。

まとめ方について学級共通の見通しをもった子どもたちに、調査活動の結果をまとめさせる。子どもは複数の表を比較してその共通点や相違点に目を向ける。そして、その要因をこれまでの既有的学習内容や経験とつないで考え始める。

働き掛け3

これからやりたいことを問い、実現させるための方法を考えさせる。

取り組むべき課題(発信対象、発信内容、発信方法)を明確にさせるための働き掛けである。

「これからの虹の輪学習でやりたいことは何ですか」と子どもに問う。子どもは、自分が知っている学習対象にかかわる知識を周りの人が知らないという事実から「『だれ』に『どのようなこと』を伝えたいのか」と、自分たちが集めてきたデータや表・グラフに整理された情報を基に、発信対象とその内容を明らかにしていく。発信対象と内容が明確になると、子どもは「どうしたら学習対象の魅力が発信対象に伝えることができるか」という方法を考え始める。共通の発信対象に学習対象の魅力をどのような方法で伝えるのかを明らかにし、課題を設定する。

課題が具体的にイメージできることで、解決の見通しをもち、より具体的な方法を考え準備をし、実行にうつす。

働き掛け4

専門家から、子どもたちの活動を価値付け、専門家の取組について話を聞かせる。

発信対象や発信方法の価値を高めさせ、新たな見方を付加させるための働き掛けである。

専門家から、子どもが行っている発信の取組についての価値を話してもらい、子どもは、自分たちがやってきたことに価値を感じ、もっとやりたいという気持ちを高める。

次に、専門家の取組について話をしてもらい、専門家が同じ思いで行っている取組とその趣旨を説明してもらい、子どもは、専門家の取組に共感するとともに憧れをもつ。そして、専門家のようにもっと多くの人に様々な方法で発信したいと思うようになる。

働き掛け5

どのような場でどのような活動をするとうい、考えさせる。

新たな発信対象を見いださせるための働き掛けである。

専門家の話を聞いた子どもに、「どのような場でどのような活動をしたいか」と問い、考えさせる。子どもは、人の多いところに行き対象を見いだそうとする。そして、社会科の町探検や市の様子を調べた既知をもちだし、人が多く集まるところを効果的な場所として挙げる。対象を思い浮かべた子どもたちは、自分が思い浮かべた人たちがどこに住んでいる人なのか、笹団子についてどの程度知識があるのか、などについて知りたくなり、インタビューやアンケートで調べてくることを考える。そして、インタビューや質問紙の内容を考える。

働き掛け6

発信対象に対してどのような方法で伝えればよいか問う。

発信対象を見だし、新たな課題を更新させるための働き掛けである。

調査活動を行わせ、そのデータを集める。集めてきた情報が大量にあることから、子どもは算数の学習を想起し、**複数の情報を整理し見やすくするために、表やグラフに整理して集計する(☆資質・能力 算②)**ことを考える。その後、どのような場で活動させるとよいか考えさせる。子どもは、自分とは関わりがないが、学習対象についてあまり知らないたくさんの人を効果的な発信対象として設定する。発信対象が決まると、それにあった方法を考え設定する。具体的には「(発信対象)に、△△△△(方法)で伝えよう」と、追究すべき具体的な課題を設定する。この姿が、**調査活動の結果をもとに発信対象を見だし、取り組むべき課題を明確にする子どもの姿**である。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC_nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け6を受けて、調査活動の結果をもとに発信対象を見だし、取り組むべき課題を明確にしたかを、活動の様子やワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け2, 3, 4, 5を受けて、想定していた資質・能力を発揮しているかどうか、発言や教師の問い掛けに対する反応、カードへの記述から検証する。
- ③ 子どもの自己評価や振り返りから、資質・能力を自覚しているかを検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(6月) 「100年後まで守りたい ～私たちの笹団子～」
- (2) 中間検討会(9月) 「100年後まで守りたい ～私たちの信濃川～」
- (3) 初等教育研究会(2月) 「100年後まで守りたい ～私たちのエネルギー～」